

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2011年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

2011

沖縄キリスト教短期大学

2011年度 後期授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 神山 繁實

本年度後期授業評価も従来通りの手法でなされ、毎年、僅かではあるが向上の跡が見られる。授業評価は、大別して、教員に関する事項と学生に関する事項とに分けられるが、教員が責任を持たなければならない授業科目の準備や、具体的な方法については良い評価を受け続けていることは喜ばしい。あまり変わらないのは学生側の授業を受ける準備がかなり不足している現実を認識する必要がある。これは長年育まれた現代の中高校の文化的遺産であるのかもしれないし、彼らばかりを責めるわけにはいかない。しかしこの文化を修正していかなければ人間としての成長も期待できないし、学習効果もさほど期待できない。但し、中には現時点で光り輝く学生がいるのも事実で、両極端の学生や、中間の学生に対する教育的効果をあげるために、3段階ぐらいの学生を対象とした個別の対応が具体的にできる評価システムの構築が望まれる。現在、評価方法について検討しており、その成果に期待したい。

最後に、授業評価の準備をし、評価作業に参加された学生、教職員の皆さんには心から謝意を表したい。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2011年度）

神 山 繁 實（委員長・学長）
城 間 仙 子（委員・短期大学部長）
柳 田 正 豪（委員・英語科長）
川 西 康 裕（委員・保育科長）
青 野 和 彦（委員・総合教育系主任）
金 永 秀（委員・宗教部長）
内 間 清 晴（委員・図書館長）
近 藤 功 行（委員・キャリア開発部長）
大 城 亘 武（委員・教学部長）
上 原 明 子（委員・入試部長）
与那覇 明 弘（委員・事務局長）
金 城 繁 正（委員・企画推進課長代行）

執筆者

上 原 明 子（総合教育系）
城 間 仙 子（英語科）
喜舎場 勤 子（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2011年度後期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2011年度後期の授業評価アンケートを、2012年1月中旬（当該学期末に近い時期）に実施した。対象は、開講した91科目および154クラスとした。ただし、クラス数には、実習科目（施設実習・保育所実習・幼稚園教育実習・海外研修）は含まれていない。分析に投与された評価票は、3,836件であった。評価は、5段階法を採用し1点を最低とし、5点を最高評価とする。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

以下、各設問に対する結果に対して若干の解説および解釈を述べる。

Q1 「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が76.9%、「4」評価を加えると94.9%であったことから、授業目的や概要の説明は適切に実施されていると考えられる。

Q2 「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が74.3%、「4」評価を加えると92.7%であったことから、当該項目についても適切に実施されているといえる。

Q3 「先生は、授業について熱意がありました」

「5」評価が80.5%、「4」評価を加えると95.5%であった。全学科の記述統計量の平均値において、当該項目は最も高かった。

Q4 「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」評価が70.5%、「4」評価を加えると89.6%であった。同年前期は「5」「4」評価の合算が87.3%であった。これらと比較した場合、評価ポイントは上昇しており、改善していると捉えることができる。さらに「1」「2」評価の合算も前期3%に対し後期1.9%と減少していた。

Q5 「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」評価が77.0%、「4」評価を加えると94.2%であったことから、教材研究および事前準備などが適切に行われていると考えられる。

Q6 「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」評価が73.7%、「4」評価を合算すると92.0%であった。同年前期に比べ、1.5ポイント上昇していた。各教員が質を担保するため、継続して授業研究にあたっているものと推察される。

Q7 「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

「5」評価は77.6%、「4」評価を加えると94.5%であったことから、教員の時間管

理はほぼ適切に行われていると捉えられる。

Q8 「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」評価が 74.9%、「4」評価を加えると 92.9%であったことから、学生の質問の機会はほぼ十分に保障されていると捉えられる。

Q9 「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合算すると 89.9%であった。ほぼ9割の学生が満足しており、概ね良好な結果と捉えてよい。

Q10 「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合算すると 90.1%であり、学生は授業に対してほぼ満足したと考えてよい。

Q11 「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合算すると 90.5%であり、学生も提供される授業に対して熱心に取り組んでいると評価できる。

Q12 「私は、授業の学習にあたり、シラバス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

「5」評価は 52.0%、「4」評価を合算して 74.3%であった。また、標準偏差も 1 を超えるなど回答のばらつきが大きかった。当該項目については、これまで設問の妥当性を指摘するコメントもあげられている。2011年度の授業評価の分析と平行して、評価アンケートの見直し作業が進められており、設問の妥当性も含め全体のあり方については、今後、議論を経て次年度へ反映される予定である。

Q13 「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

「5」と「4」の評価を合算すると 90.1%であり、学生は概ね規範意識をもって受講しているものと捉えることができる。

Q14 「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合算すると 86.9%であり、概ね良好ととらえることができる。当該項目については、学科間のばらつきが目立った。

Q15 「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

評価平均は 1.82 であり、他の質問項目との比較において、毎年最低値を示している。今年度の評価分析と平行して、授業評価アンケートの見直しが進められており、当該項目についても、教員間の議論を経て改善される予定である。

Q16「この授業を全体的に評価してください」

「5」と「4」の評価を合算すると80.5%であった。評価平均も4.19であり概ね学生は満足していると捉えられる。

Q17「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

「5」と「4」の評価を合算すると84.0%であり、8割以上の学生が肯定的評価を行っていた。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	.0	.0	.0
	2	21	.5	.5	.5
	3	172	4.5	4.5	5.0
	4	689	18.0	18.0	23.0
	5	2946	76.8	76.9	99.9
合計		3829	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3836	100.0		

Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	3	.1	.1	.1
	2	26	.7	.7	.8
	3	249	6.5	6.5	7.3
	4	706	18.4	18.4	25.7
	5	2845	74.2	74.3	100.0
合計		3829	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3836	100.0		

Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	.0	.0	.0
	2	18	.5	.5	.5
	3	155	4.0	4.0	4.5
	4	573	14.9	15.0	19.5
	5	3081	80.3	80.5	100.0
合計		3828	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3836	100.0		

Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	9	.2	.2	.2
2	66	1.7	1.7	1.9
3	321	8.4	8.4	10.3
4	732	19.1	19.1	29.4
5	2699	70.4	70.5	99.9
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q5準備よい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1	.0	.0	.0
2	22	.6	.6	.6
3	198	5.2	5.2	5.8
4	658	17.2	17.2	23.0
5	2946	76.8	77.0	100.0
合計	3825	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	11	.3		
合計	3836	100.0		

Q6理解興味 of 工夫

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	4	.1	.1	.1
2	39	1.0	1.0	1.1
3	263	6.9	6.9	8.0
4	701	18.3	18.3	26.3
5	2820	73.5	73.7	100.0
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1	.0	.0	.0
2	21	.5	.5	.5
3	189	4.9	4.9	5.4
4	645	16.8	16.9	22.3
5	2971	77.5	77.6	99.9
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	31	.8	.8	1.0
3	237	6.2	6.2	7.2
4	687	17.9	18.0	25.2
5	2866	74.7	74.9	100.1
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	21	.5	.5	.5
2	36	.9	.9	1.4
3	328	8.6	8.6	10.0
4	763	19.9	19.9	29.9
5	2679	69.8	70.0	99.9
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	11	.3	.3	.3
2	53	1.4	1.4	1.7
3	317	8.3	8.3	10.0
4	654	17.0	17.1	27.1
5	2794	72.8	73.0	100.1
合計	3829	99.8	100.1	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3836	100.0		

Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	5	.1	.1	.1
2	30	.8	.8	.9
3	333	8.7	8.7	9.6
4	863	22.5	22.6	32.2
5	2598	67.7	67.9	100.1
合計	3829	99.8	100.1	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3836	100.0		

Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	142	3.7	3.7	3.7
2	131	3.4	3.4	7.1
3	709	18.5	18.5	25.6
4	855	22.3	22.3	47.9
5	1989	51.9	52.0	99.9
合計	3826	99.7	100.0	
欠損値 システム欠損値	10	.3		
合計	3836	100.0		

Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	15	.4	.4	.4
2	37	1.0	1.0	1.4
3	328	8.6	8.6	10.0
4	841	21.9	22.0	32.0
5	2606	67.9	68.1	100.1
合計	3827	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3836	100.0		

Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	15	.4	.4	.4
2	110	2.9	2.9	3.3
3	370	9.6	9.7	13.0
4	726	18.9	19.0	32.0
5	2598	67.7	67.9	99.9
合計	3819	99.6	99.8	
欠損値 システム欠損値	17	.4		
合計	3836	100.0		

Q15予習復習時間

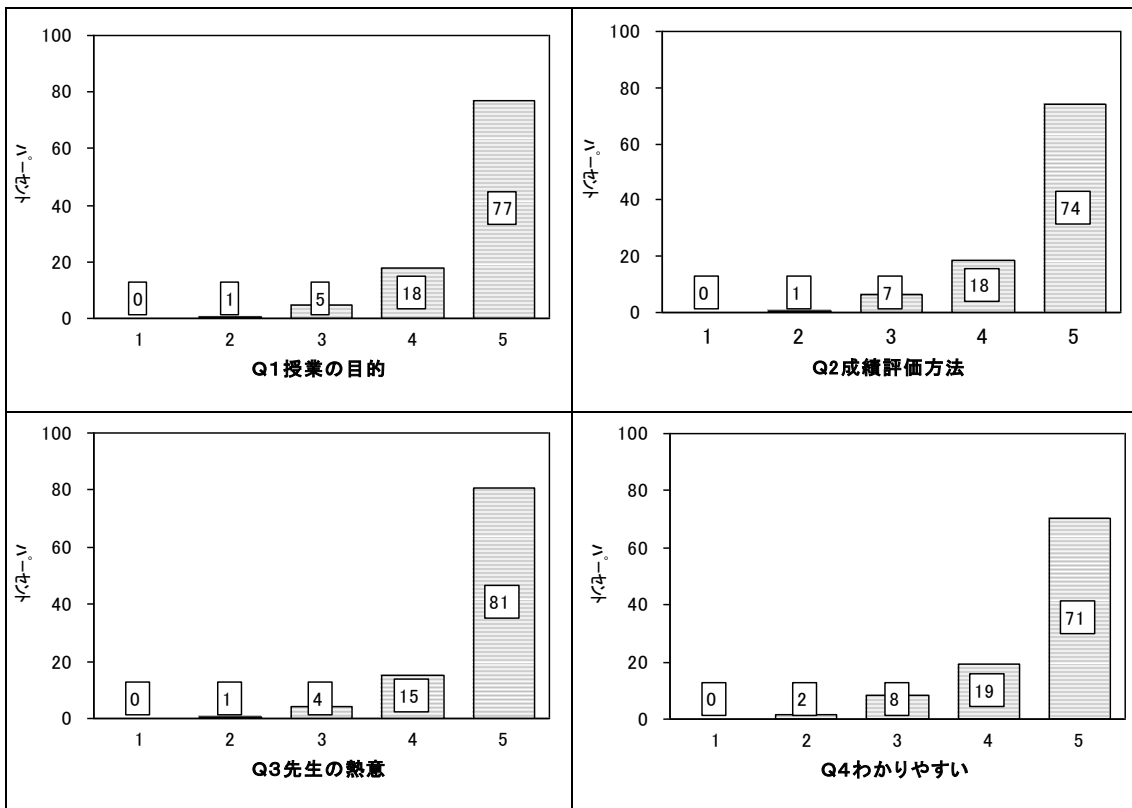
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1859	48.5	48.6	48.6
2	1081	28.2	28.2	76.8
3	503	13.1	13.1	89.9
4	122	3.2	3.2	93.1
5	117	3.1	3.1	96.2
合計	3682	96.0	96.2	
欠損値 システム欠損値	154	4.0		
合計	3836	100.0		

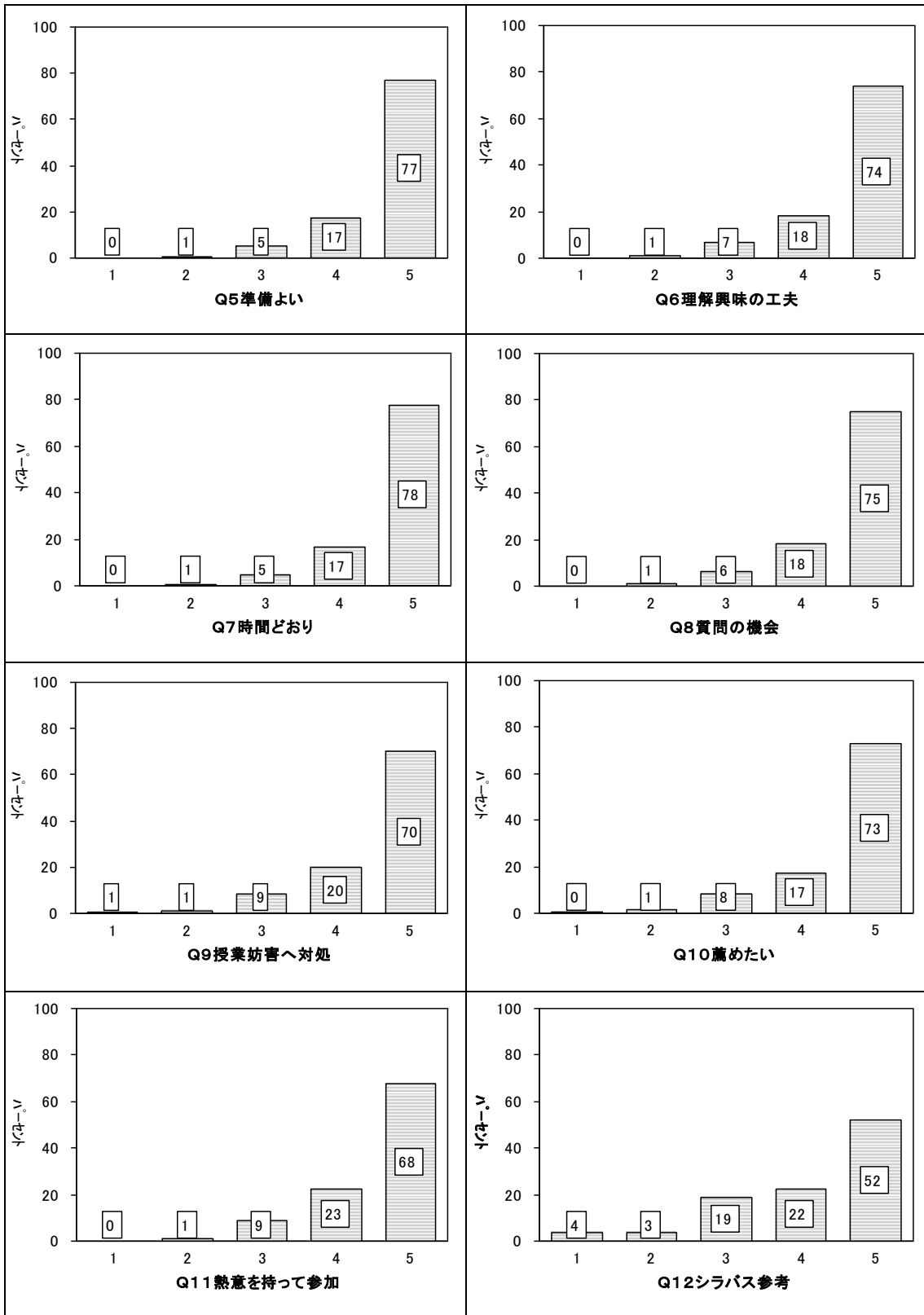
Q16全体的評価

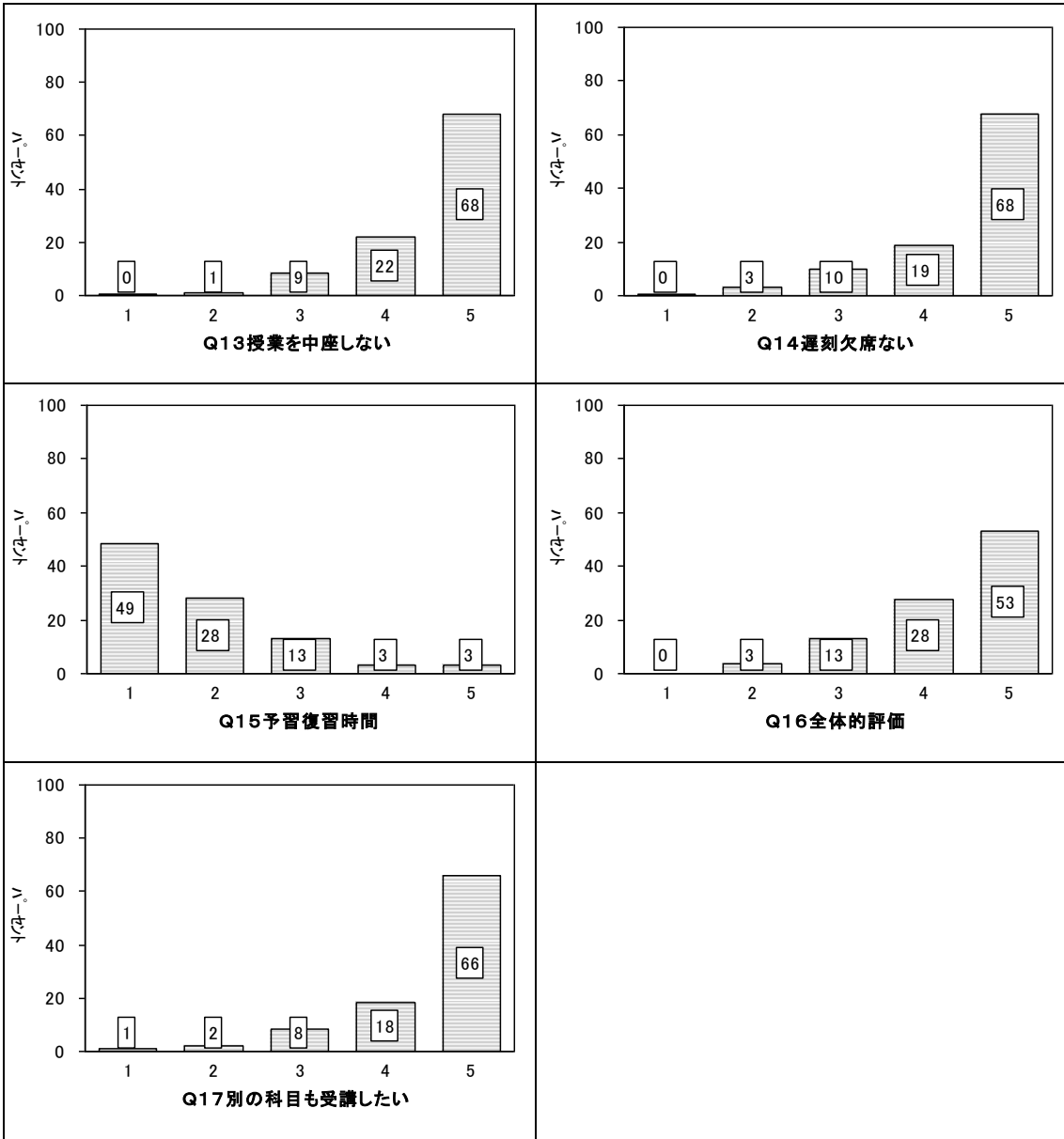
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0	64	1.7	1.7	1.7
1	5	.1	.1	1.8
2	132	3.4	3.4	5.2
3	495	12.9	12.9	18.1
4	1051	27.4	27.5	45.6
5	2030	52.9	53.0	98.6
合計	3777	98.5	98.7	
欠損値 システム欠損値	59	1.5		
合計	3836	100.0		

Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	31	.8	.8	.8
2	76	2.0	2.0	2.8
3	318	8.3	8.3	11.1
4	693	18.1	18.1	29.2
5	2521	65.7	65.9	95.1
合計	3639	94.9	95.1	
欠損値 システム欠損値	197	5.1		
合計	3836	100.0		







2 全体の評定結果

短大全体の平均値は、設問 17 項目中 16 項目で 4.0 を超えており、学生の高い満足度が看取でき、概ね適正に授業が遂行されているといえる。学生自身の教員に対する評価と自己の省察という視点においては、下記のとおりであった。

教員要因 (Q1-10) の平均値は 4.64 であり、回答のばらつきを示す標準偏差は 1 以内であった。多くの学生が提供される授業に対し、非常に満足していると考えられる。一方、学生要因 (Q11-17) の平均値は 4.04 であり、標準偏差は「Q12 シラバス参考」「Q16 全体的評価」の 2 項目で 1 を超えていた。特徴としては、教員に対する評価に比べ学生自身の自己省察が低く、標準偏差も大きいことがわかる。

上掲の一要因としては、ここ数年の懸案である「Q15 予習復習時間 (1.82)」の低迷がある。ちなみに Q15 を除外した学生要因の平均値は 4.41 であった。また、過去数年間のデータが示すとおり、今年度においても前期 (1.99) より後期は評価が下がっていた。上掲した Q12、Q15、Q16 は、英語科・保育科ともに、他項目との比較において評価が低く、いずれも標準偏差が概ね 1 を超え、回答のばらつきが大きかった。これらに対する解釈については、教員間の議論が急がれる。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	3517	1	5	4.70	.626
Q2 成績評価方法	3518	1	5	4.66	.682
Q3 の熱意	3517	1	5	4.76	.567
Q4 わかりやすい	3516	1	5	4.53	.860
Q5 準備よい	3516	1	5	4.68	.661
Q6 理解興味の工夫	3515	1	5	4.60	.752
Q7 時間どおり	3518	1	5	4.71	.647
Q8 質問の機会	3511	1	5	4.64	.719
Q9 授業妨害へ対処	3516	1	5	4.61	.714
Q10 薦めたい	3516	1	5	4.54	.847
Q11 熱意を持って参加	3515	1	5	4.55	.737
Q12 シラバス参考	3513	1	5	4.22	1.072
Q13 授業を中座しない	3516	1	5	4.59	.704
Q14 遅刻欠席ない	3506	1	5	4.47	.844
Q15 予習復習時間	3336	1	5	1.82	.962
Q16 全体的評価	3464	0	5	4.19	1.136
Q17 別の科目も受講したい	3396	1	5	4.45	.940

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

前年度（後期）との比較では、17項目中、13項目で平均値が向上している。下がった項目のQ3「熱意」は、4.79から4.78、Q7「時間どおり」は、4.78から4.76、Q9「授業妨害への対処」は4.61から4.56、Q11「熱意を持って参加」4.52から4.55となっており、いずれも高い評価を得ている。教員要因項目の中で最も高い評価を得たのはQ3「熱意」の4.78で、次いで、Q5「準備よい」の4.77となっており、今年度前期に引き続き、本学の教員の授業への取り組みが高く評価された結果を得た。今後の教育への励みとしたい。学生要因項目については、ほとんどの項目で例年通りの評価を得ており、学生の授業への取り組みは概ね良好であるという結果を得た。懸案事項のQ15「予習復習時間」は1.68となっており、改善が課題である。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	729	2	5	4.75	.569
Q2成績評価方法	729	2	5	4.73	.608
Q3の熱意	729	2	5	4.78	.538
Q4わかりやすい	729	1	5	4.59	.762
Q5準備よい	728	2	5	4.77	.553
Q6理解興味の工夫	728	1	5	4.67	.659
Q7時間どおり	728	2	5	4.76	.551
Q8質問の機会	728	1	5	4.62	.707
Q9授業妨害へ対処	729	1	5	4.56	.745
Q10薦めたい	729	1	5	4.59	.797
Q11熱意を持って参加	729	1	5	4.55	.745
Q12シラバス参考	728	1	5	4.17	1.064
Q13授業を中座しない	728	1	5	4.58	.715
Q14遅刻欠席ない	726	1	5	4.51	.817
Q15予習復習時間	691	1	5	1.68	.906
Q16全体的評価	717	0	5	4.28	1.031
Q17別の科目も受講したい	698	1	5	4.50	.887

3.2 英語科の評定結果

前年同期の比較では、予習復習時間を除く全項目で4.0以上の評価を得ているものの、今年度前期とは逆に評定結果が前年を下回る結果となった。原因の分析と対処策が待たれる。また、学生本人に関する項目では「遅刻欠席」に関する評定が比較的高い標準偏差を示している。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	928	2	5	4.67	.609
Q2成績評価方法	928	2	5	4.61	.671
Q3の熱意	928	1	5	4.65	.639
Q4わかりやすい	927	1	5	4.51	.788
Q5準備よい	927	1	5	4.64	.646
Q6理解興味の工夫	927	1	5	4.56	.727
Q7時間どおり	927	1	5	4.66	.607
Q8質問の機会	927	1	5	4.61	.694
Q9授業妨害へ対処	927	1	5	4.49	.799
Q10薦めたい	928	1	5	4.52	.788
Q11熱意を持って参加	928	2	5	4.42	.772
Q12シラバス参考	928	1	5	4.19	1.023
Q13授業を中座しない	927	1	5	4.38	.796
Q14遅刻欠席ない	927	1	5	4.21	.944
Q15予習復習時間	893	1	5	2.09	1.011
Q16全体的評価	914	0	5	4.12	1.008
Q17別の科目も受講したい	888	1	5	4.43	.906

3.3 保育科の評定結果

教員要因 (Q1-Q10) の平均値は 4.63 (前期) から 4.69 (後期) へ上昇し、回答のばらつきを示す標準偏差の平均も小さくなった。学生の満足度が定着していると推察される。最高値の Q3「教員の熱意 (4.79)」も前期を上まわり、各教員が質の担保のため研鑽を積んでいると評価できる。

学生要因 (Q11-17) の平均値も 4.07 (前期) から 4.10 (後期) へ上昇し、標準偏差も小さくなった。しかし、Q15「予習復習時間」は、この数年の低迷に加え 1.85 (前期) から 1.70 (後期) と減じた。これは設問の立て方に起因していると考えられる。保育科は課題が多く、授業外の学習時間は必ずしも少なくない。学生のこれまでの学習法と大学入学後の学習形態や方法は異なる。主体的学習者をキーコンセプトにした質問項目の整理など、教員間の議論が俟たれる。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2172	1	5	4.72	.561
Q2成績評価方法	2172	1	5	4.66	.627
Q3の熱意	2171	2	5	4.79	.498
Q4わかりやすい	2171	1	5	4.61	.704
Q5準備よい	2170	2	5	4.71	.576
Q6理解興味の工夫	2172	1	5	4.67	.633
Q7時間どおり	2172	2	5	4.72	.580
Q8質問の機会	2172	1	5	4.70	.594
Q9授業妨害へ対処	2171	1	5	4.63	.695
Q10薦めたい	2172	1	5	4.66	.659
Q11熱意を持って参加	2172	1	5	4.65	.627
Q12シラバス参考	2170	1	5	4.13	1.098
Q13授業を中座しない	2172	1	5	4.64	.678
Q14遅刻欠席ない	2166	1	5	4.65	.713
Q15予習復習時間	2098	1	5	1.70	1.016
Q16全体的評価	2146	0	5	4.32	.999
Q17別の科目も受講したい	2053	1	5	4.59	.724

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

「1. よい点」として、「おもしろい」「楽しい」「熱意がある」「工夫がなされている」等に加えて、「役に立つ」「ためになる」という記述が見られた。「2. 改善点」としては、授業妨害について改善を求める記述や教員の指導方法については、厳しすぎるから優しすぎるまで、それぞれの学生の受け止め方で差異が見られた。「3. 感想等」では、授業内容以上に、教員への満足度の高さが伺える記述が多く見られた。

4.2 英語科の授業について

前期同様、授業の良い点で多く挙げられているのが、担当教員の授業に対する工夫への評価と授業に対する熱意であった。改善点に関しては、これも前期と同様に「先生が早口」「教員の声が小さい」「難しすぎる」「進め方が速すぎる」が多くみられたが、「私語が多い」「私語を注意してほしい」に関しては、若干増加している。学生の自律を促す教育と教員のクラスマネジメント力の向上が望まれる。

4.3 保育科の授業について

「1. この授業のよい点」に関しては 393 件の評言があった。なかでも、教員の熱意への高い評価をはじめ、視聴覚機器の使用や討論・グループ発表などの指導法、新聞や絵本といった教材など、その多様なあり方に対して好意的な評言が多くみられた。

「2. 改善して欲しい点」は 80 件あり、「クラス人数が多い」ことやグループ課題準備の支障からクラス編成（登録）のあり方に対する不満があった。また、複数の教員が担当する科目については、教員間の連携改善に言及するものもあった。

「3. 授業に対する感想等」は 161 件あり、授業の運営方法や授業内容について、達成感や学ぶ喜びについての評言が目立った。

おわりに

概して全体的に評価が高く、本学の授業が適正に提供されているという結果を得た。教員要因（Q1-10）については、前期（平均値 4.63）同様、高評価を維持しており、授業の質を担保するため教員が日々研鑽を積んでいると捉えられる。一方、学生自身の省察という観点からは、課題も浮き彫りになった。すなわち、「Q12 シラバス参考」「Q15 予習復習時間」「Q16 全体的評価」において、相対的に評価が低く回答のばらつきも大きかった。特に Q15 に関しては、ここ数年例外なく後期は前期より学習時間が減少する傾向にある。他律的イメージを含む「予習・復習」については、教員間で議論し概念を整理するとともに、学生自身の学習主体者としての意識喚起も合わせて行う必要があるのではないだろうか。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7月
後期 1月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問1～17について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそう思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。 5（3時間以上） 4（2時間ぐらい） 3（1時間ぐらい） 2（30分ぐらい） 1（ほとんどしなかった）	5 4 3 2 1
16. この授業を全体的に評価してください。※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	5 4 3 2 1
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入試区分	1 一般入試	2 推薦入試	3 A0入試	

*（学籍番号）できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

（裏面に記入）

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

（裏のページへ進んでください⇒）

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点															
2. この授業に改善してほしい点															
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。															
4. 学長へ（聞いてほしいこと）															